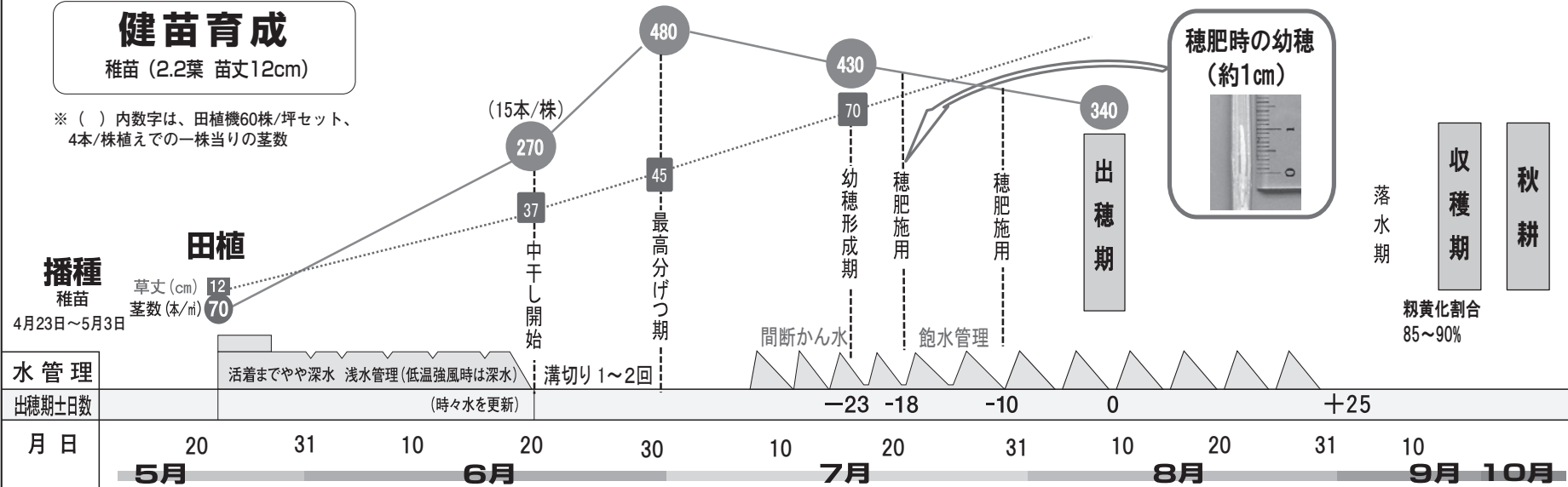


魚沼「コシヒカリ」栽培ぐよみ

生育指標と水管理



病害虫防除例

防除薬剤と除草剤の使用は各農薬の化学合成農薬成分数を合計した数で9回以下の成分回数となるように使用してください。

種子消毒 (温湯消毒、タフプロック)

初期害虫+いもち病 (育苗箱施用)

- ・スタウトバディート箱粒剤(2)
- ・ファーストオリゼリディア粒剤(2)

補植苗除去

草刈り (6月上旬)

一斉草刈り (6月下旬)

一斉草刈り (7月中下旬)

①畦畔は常にきれいに草刈りをしてください。
②年間を通じて畦畔をきれいに草刈りをしている場合は出穂期以降も継続的に草刈りを実施できます。

斑点米カメムシ類

剤名	剤型	散布適期
スタークル (1)	粒剤	出穂3日後～出穂7日後まで
	粉剤	基本は2回散布 穂揃期1回・散布1週間後1回
キラップ (1)	粒剤	出穂10日前～出穂期

● 農薬名の後ろの () 内数字は化学合成農薬成分数です。
● 農薬は、一例を示したものです。これ以外の農薬、剤型も使用できます。

温湯消毒種子の場合は水を毎日更新

こしいぶき栽培こよみ (R6年1月版)

目標収量	540kg/10a
穂数	350本/㎡
1穂粒数	78粒
㎡当り粒数	27,300粒
登熟歩合	85%
千粒重	23.4g
整粒歩合	85%

栽培のポイント

- (1) 育苗～健苗育成(2.2L、12cm)、徒長させない
適正播種量にする(種苗1箱当り130～140g)
こしいぶきは苗丈が伸びにくいので、出芽長を1cmとし緑化期をコシヒカリより1日程度長めとする
温度管理に注意し硬化管理を徹底する
弁当肥の施用(移植4～5日前)で活着促進
- (2) 移植～1株苗数3～4本植えとし茎質を高める
茎数がとれにくいので、栽植密度は平坦地60株/坪をめやすとする
- (3) 基肥～目標穂数確保のための施肥量とする
基肥窒素量は、粘質土4kg/10a、黒ボク土5kg/10a程度とする
中干しは目標穂数の80%(280本/㎡)をめやすに行う
溝切りを徹底し根の健全化により茎質を向上させる
出穂1か月前までに中干しを終了させる
落水は出穂後25日以降とし根の活力保持により稲体活力を維持する

- (5) 病害虫防除～いもち病に対しては、箱施用剤による葉いもち防除と本田での穂いもち防除を基本とする
紋枯病が出やすいので、発生状況に応じて防除を行う
穂肥は1回目を出穂23日前、2回目14日前に施用する
- (6) 穂肥～

土質	1回目(窒素成分)	2回目(窒素成分)
黒ボク	2.0kg/10a	2.0kg/10a
粘質	1.5kg/10a	1.5kg/10a

※1回目穂肥時期が遅れないように注意する
収穫は、出穂後積算気温975℃をめやすに、籾の黄化率85～90%とする(高温年は2日程度早く収穫する)
胴割れ発生防止のため、急激な乾燥は避け、毎時乾減水分は0.8%以内とする
選別網目は1.9mmとし、適正な流量でしっかりと選別を行う
稲わらの秋すき込みなど、継続的な土づくりに努める
- (7) 収穫・乾燥・調整～
- (8) 土づくり～

月	4月		5月		6月		7月		8月		9月	
			10	20	10	20	10	20	10	20	10	
生育時期区分			移植	分けつ開始	中干し	溝切り	最高分けつ期	幼穂形成期 (-23)	減数分裂期 (-12)	出穂期 (0)	成熟期	
	緑化	硬化	活着		有効分けつ		無効分けつ		幼穂形成	穂ばらみ	登熟	
草丈 (cm)	12		29		44	58	80(稈長)					
茎数 (本/㎡)	73(4本植え)		270		560	560	350					
葉色 (SPAD)	40		41		40	37						

施肥基準	◎基肥のめやす (成分kg/10a)				◎生育量のめやす				◎穂肥のめやす				
	地帯区分	窒素	リン酸	加里	6月30日			1回目穂肥時(幼穂形成期)			穂肥は1回目を出穂23日前、2回目14日前に施用する		
	黒ボク	5.0	6.5	5.0	草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	葉色 (SPAD値)	草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	葉色 (SPAD値)	土質	1回目(窒素成分)	2回目(窒素成分)
	粘質	4.0	5.2	4.0	44	560	41	58	560	40	黒ボク	2.0kg/10a	2.0kg/10a
											粘質	1.5kg/10a	1.5kg/10a
											※1回目穂肥時期が遅れないように注意する		



管理の要点	保温的水管理		浅水管理		中干し・溝切り		飽水管理		常時湛水	
	<ul style="list-style-type: none"> ・徒長しない苗作り ・健苗育成 ・薄播きの励行 ・硬化を十分に行う ・弁当肥の施用 ・箱施用剤による葉いもち防除 	<ul style="list-style-type: none"> ・好天日浅植え ・適期、適正栽植密度で移植 ・良質茎の確保 ・低温強風時の障害防止 	<ul style="list-style-type: none"> ・梅雨入り前に良質茎を確保 ・ワキの防止 ・田面溝切り ・目標穂数80%で中干し開始 ・稲体の健全化と生育調節 	<ul style="list-style-type: none"> ・出穂1か月前までに中干し終了 ・中干し終了後は飽水管理 ・葉いもち早期発見・早期防除 ・1回目穂肥 ・穂いもち粒剤防除 ・2回目穂肥 	<ul style="list-style-type: none"> ・高温時水の更新 ・本田での穂いもち防除 ・出穂前後10日間は深水 ・稲体の活力維持 	<ul style="list-style-type: none"> ・早期落水をしない ・強風時の深水 ・高温時水の更新 ・フェーン時の深水 ・落水期は出穂後25日以降 ・高品質米への仕上げ 				

(籾黄化率 85～90%)